

## 【NEWS RELEASE】

2022年3月31日

各 位

株式会社三井住友銀行

東洋エンジニアリング株式会社に対し、「ESG/SDGs評価」に基づく  
ボンド・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、東洋エンジニアリング株式会社（取締役社長：永松 治夫）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくボンド（※1）・シンジケーションを組成いたしました。

本件は、ボンド・シンジケーションの組成とあわせて、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、東洋エンジニアリング株式会社のESG（※2）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※3）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるボンド・シンジケーションとなります。なお、本件のようにサステナブル・ファイナンスに属するボンド・シンジケーションは、本リリース時点において本邦初の取組となります。

今回対象となりました東洋エンジニアリング株式会社の取組は、「製品・サービスにおける環境配慮」、「顧客に対する誠実さ」、「サステナビリティマネジメント」において非常に高い水準であると判断されました。企業経営において良好なESG側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への貢献意欲が高いとの評価となりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が評価されました。

E：CO2排出量、水使用量、廃棄物排出量等、主な環境負荷の実績値を経年変化が分かる形で把握・開示している。また、アンモニアプラントや石油化学プラント設計の長年にわたる実績をもとに、燃料アンモニアや再生可能代替航空燃料等、独自性のある環境ビジネスの開発を進めている点。

S：製品・サービスの安定供給に向けて、施設・通信インフラ拡充等リスク対策を講じている。従業員関連のデータとして、育児・介護休業等の取得者数の男女内訳や、女性管理職比率等の実績値を経年変化が分かる形で把握・開示している点。

G：「エンジニアリングで地球と社会のサステナビリティに貢献する」という企業理念のもと、重要経営課題（マテリアリティ）を特定し、専任部署を設置する等、経営上の重要課題としてサステナビリティの取組を推進している。また、「統合報告書」を発行し、株主・投資家に対しても、経営戦略とともにESGへの取組状況を説明している点。

SDGs：本業を通じたSDGs貢献への具体的な取組として、次世代エネルギーや資源循環促進に向けた技術開発、肥料プラントの建設等の事業を実施し（インプット）、その普及（アウトプット）を通じて、脱炭素化・廃棄物の削減、食料問題の改善等を実現（アウトカム）し、SDGsが示す「目標7（クリーンエネルギー）」、「目標12（つくる責任つかう責任）」「目標2（飢餓をゼロに）」等に貢献している点。

三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ボンド (Bond) とは

顧客の依頼により銀行が発行する書状のことで、顧客の金銭支払債務や債務不履行に基づく損害賠償債務を銀行が保証するものです。代表的なボンド (Bond) としては、入札保証 (Bid Bond) ・契約履行保証 (Performance Bond) ・前受金返還保証 (Advance Payment Bond) 等があります。

※2 ESGとは

ESGとは環境 (Environmental)、社会 (Social)、企業統治 (Corporate Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※3 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことで。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。